

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：株式会社ウィルオブ・ワーク _____

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	介護サービスは介護保険法に基づいて提供され、利用者のニーズに合った種々のサービスが提供されることを理解させる。また、利用者の立場から見た介護サービス、働く側から見た介護サービスをイメージできるように指導する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	3	3	0	<講義内容> 介護保険サービス事業者の概要を深める
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<講義内容> 講師による講義の他、視聴覚教材を活用し、理解を深める。いろいろな介護サービスを体験する講師のもと、視覚的な講義を実施。また、キャリアパスについても説明、特に介護経験のない受講生には介護の仕事の魅力を伝える。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行テキスト DVD 教材
------------	----------------------------

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	利用者が尊厳ある暮らしを続けるための介護職は、専門職であるという自覚を持たせるとともに、介護の基本的視点を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	2	1	1	<講義内容> 事例からQOLの向上や不適切な介護についてグループで討議まとめる <通信学習課題の内容> 人権に関する基本的事項、権利擁護制度について理解する。テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。
②自立に向けた介護	5	1	4	<講義内容> 自立に向けた介護の重要性、介護予防・重度化防止について、事例をもとに基本視点を理解させる <通信学習課題の内容> 介護が必要な方の自己選択・自己決定についての理解を深める。テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容> 人権擁護にかかわる団体講師を登用し、高齢者の生活と人権にかかわる講義を行う。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護に関する高い倫理観のもと、介護の専門性、利用者の個別性を再認識させる。 また、介護の仕事の中でのリスクにはどのようなものがあるか、どのように予防していくかを理解させる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と他職種との連携	2	1	1	<p><講義内容> 介護職員だけではなく、他の専門職とのチームアプローチは重要であることを理解させ、様々な専門職の役割を講義を中心として進行する。</p> <p><通信学習課題の内容> 介護予防にかかわる地域包括支援センターや介護予防・日常生活支援総合事業を中心に理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
②介護職の職業倫理	1	1	0	<p><講義内容> 介護の仕事には高い倫理観が求められていることを、事例やグループワークを通じて認識し講師がまとめる</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	0.5	1	<p><講義内容> 介護の仕事においてどのようなリスクがあるのかを理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 感染症、介護事故の発生要因と対策について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
④介護職の安全	1.5	0.5	1	<p><講義内容> 介護職の安全な業務遂行にはどのような取り組みが必要であることを理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 介護職員が安全に仕事を遂行するためには、自身のこころとからだの管理が不可欠であることを理解する テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険法に基づいた介護サービスの提供の具体的な理解を深めるだけでなく、介護保険サービス以外のインフォーマル部分、障害者福祉に関する基本的理解をさせる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	1.5	0.5	1	<p><講義内容> ケアプランから始まるサービス提供にいたるまでの一連の理解を深める。</p> <p><通信学習課題の内容> 介護保険制度の概要理解をする。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
③医療との連携とリハビリテーション	3.5	0.5	3	<p><講義内容> 介護をとりまくチームアプローチを行う医療やリハビリテーション専門職について理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 介護職と医療との連携の必要性の理解、医行為と介護職員が行</p>

				える医療的行為を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。
②障がい者総合支援制度及び その他制度	4	0.5	3.5	<講義内容> 障がい者総合支援制度と介護保険制度の関係、障害者基本法の考え方を理解させる。 <通信学習課題の内容> 障がい者福祉制度の変遷やサービスの内容を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	コミュニケーション技術を用いた利用者との信頼関係構築、コミュニケーションを円滑に行うための手段、一人ひとりことなるコミュニケーションが必要であることを理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	2	1	<p><講義内容> コミュニケーションに関するグループワークを通じ、その中で用いられる種類、手法を理解させる。また、利用者の家族に対するコミュニケーションについて理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> テキスト学習により、コミュニケーションを円滑にとるための福祉用具などを理解させる。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	2	<p><講義内容> グループワークを取り入れ、介護チーム報告・連絡・相談の重要性、記録を通じた情報共有の手法などを理解させる</p> <p><通信学習課題の内容> 介護チーム報告・連絡・相談の重要性、記録を通じた情報共有の手法などを理解。</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢に伴う心身の変化を介護面、医療面から理解させ、日常の利用者の変化の気づくことがその後の介護支援に不可欠であることを理解させる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<p><講義内容> ペンを使用した体温測定などを通じ、老化に伴う心身の変化の正確な理解、老化の特徴を知ることの重要性を理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 介護の立場から見た老化や症状の観察と対応方法、廃用症候群を理解する</p>
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	<p><講義内容> 老化に伴うところとからだの変化と日常の理解のもと高齢者に多く見られる疾患や障害について理解させ、ワークにて基本的な対応方法を深める。</p> <p><通信学習課題の内容> 医療的側面からみた高齢者の健康について理解する。テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	認知症の基本的事項、コミュニケーションを通じ、認知症利用者個々の世界観が適切な支援に結びつくことを理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1.5	1	0.5	<p><講義内容> 認知症ケアに関する基本的な考え方を理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 認知症ケアの基本的な姿勢を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	0.5	1	<p><講義内容> 認知症の症状に応じた介護の基本的な方法を理解させ、事例をもとにコミュニケーションワークを行う。</p> <p><通信学習課題の内容> 認知症と認知症に似た症状の理解、認知症の原因疾患について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1	0.5	<p><講義内容> 認知症の特徴、介護職員が与える影響、環境が与える影響と支援について理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 認知症の中核症状と認知症の行動・心理症状について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
④家族への支援	1.5	0.5	1	<p><講義内容> 認知症の人を介護する家族に対して介護職員がどのようにかわればよいかを理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 認知症の利用者の家族のこころの理解、様々な社会資源の活用を通じた家族への支援を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	様々な障がいの基本的な特徴を理解させる。また、障がいを持つ家族の心理にはどのようなものがあるかを理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<p><講義内容> 障害の種類や制度上の区別などを理解させる</p> <p><通信学習課題の内容> 障がいの概念、ICFの視点をを用いた相互作用を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
②障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	0.5	0.5	0	<p><講義内容> 老化に伴うからだの変化を踏まえ、障害を持つ利用者へのかかわり方やコミュニケーションワークを通じて理解させる。</p>
③家族の心理、かわり支援の理解	1.5	0.5	1	<p><講義内容> 家族のこころの理解、様々な社会資源の活用を通じた家族への</p>

				支援を理解させる。 <通信学習課題の内容> 障害を持つ家族の心理変化について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護を適切に実践するための人体の構造や加齢に伴うこころの変化の基本的事項が理解できるとともに、利用者の心身の状況に応じた介護実践の重要性を講義演習を通じて理解させる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	4	1.5	2.5	<p><講義内容> 講義を中心として、介護は科学的な根拠に基づいていること、どのような介護職員が求められるのか、支援にはどのような視点が必要とされるのかを説明。</p> <p><通信学習課題の内容> 日常生活への支援の視点、介護職と医療関連職との関係、QOLの視点を理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	1.5	2.5	<p><講義内容> 利用者の尊厳を守るためには、高齢者のこころありようを理解して支援に生かすことが必要であることを説明、理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 記憶や感情、自己概念について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	1.5	2.5	<p><講義内容> 人体の構造、内部器官、ボディメカニクスなど、高齢者に多い疾患と照らし合わせながら、介護の現場で想定される事象例を交えながら説明する。</p> <p><通信学習課題の内容> 具体的に人体の骨格、筋肉、内臓の働きについて理解する。テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
④生活と家事	4.5	3	1.5	<p><講義内容> 介護サービスにおける家事サービスの考え方を理解させる。</p> <p><通信学習課題の内容> 個人の価値観の理解や生活全体を捉えた支援、在宅での認知症利用者支援について理解する。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
⑤快適な居住環境整備と介護	3.5	1.5	2	<p><講義内容> 高齢者が安全・快適に自宅での生活が継続できるよう、介護が必要になっても、福祉用具などを活用しながら実現できることをグループワークにて取りまとめる。</p> <p><通信学習課題の内容> 買い物、食事支援、清掃、洗濯支援について、具体的な理解をする。 テキスト学習、レポート提出、理解不足部分については、講師が補いアドバイスする。</p>
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容> 身なりを整えることが生活の張りにつながる、介護が必要な利用者でも整容に関する尊厳を保持した支援が必要になることを理解させる。</p> <p><演習実施方法> 全介助ではなく部分的な介助で自立支援が可能になることを体現させる。まひの利用者について脱健着患の原則での介助事例検討を行い実践に結び付ける。</p>
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9	9	0	<p><講義内容> 人体の構造や機能に関する知識に基づいて、安全・安楽な体位変換や移乗介助が実施できるよう指導。 移動・移乗に関する専門用語の理解と、生活不活発発病の防止に役立つことを理解させる。</p> <p><演習実施方法> 立位介助、杖歩行、視覚障害者の誘導、車椅子への移譲を屋内</p>

				や屋外を活用して行う。
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	<p><講義内容> 心身機能の理解、環境、福祉用具の活用を通じた安全な支援を講義・演習を通じて理解させる。</p> <p><演習実施方法> 食具を活用した麻痺のある方への食事介助、トロミ飲料の体験、ベッド上での安楽で安全な食事介助を行う。</p>
⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	<p><講義内容> 心身の状況に応じた清潔保持の方法の理解、入浴の意義を理解させる。</p> <p><演習実施方法> 実際にお湯を使用して手浴や足浴を実施する。 麻痺の利用者の浴槽の出入り、先進介助を行う。</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	<p><講義内容> 排泄の自立は社会生活の基本であること、排泄障害や皮膚疾患の予防を講義にて説明。</p> <p><演習実施方法> 2人一組でトイレ介助のロールプレイングおよびおむつ着脱についての実技演習を行う。 事例検討と実践介護を行わせる。</p>
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p><講義内容> 講義では、睡眠のリズムや睡眠の種類、睡眠が体に与える影響、高齢者の特徴などを説明。</p> <p><演習実施方法> 快適な睡眠のためのシーツ交換等のベッドメイキングや、2人一組で褥瘡予防体位変換について実技演習する。</p>
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	1	1	0	<p><講義内容> 終末期介護の基本理解、尊厳の保持、こころのしくみ、家族とのかかわりを説明する。</p> <p><演習実施方法> 終末期を迎えた利用者について、尊厳を保持しながらの適切なコミュニケーションを検討し実践演習を行う。</p>
⑬介護過程の基礎的理解	6	6	0	<p><講義内容> 介護過程という科学的根拠に基づいた実践が必要であることを、介護過程の基礎理解を講義を中心とした説明する。</p> <p><演習実施方法> グループワークを中心に、介護の実践に結び付けるトレーニングを行う。事例をもとに、ここ結びつけるためのグループワーク、演習を行う。</p>
⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	<p><演習実施方法> 複数の事例について、事例をもとに、こころとからだの力が発揮できない要因の分析を行い実際の介護に結びつけるためのグループワーク、演習を行う。</p>
(合計時間数)	75	64	11	

使用する機器・備品等	ベッド、シーツ、枕、タオルケット、車いす、T字杖、白杖、浴槽、ポータブルトイレ、テーブル付き紙おむつ、パンツタイプおむつ、福祉食具、前あき・かぶり上衣、下衣
------------	--

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことを再確認できる。 資格取得後も自己研鑽に努め、介護実践に繋げることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	3	3	0	<講義内容> これまで学んだこと、介護に必要な知識や技術の具体的提示、 介護過程の重要性や、チームアプローチに関する振り返りを個人 ワークやグループワークでとりまとめる。
②就業への備えと研修修了後 における事例	1	1	0	<講義内容> カリキュラムで学習したこと以外で、就業のためのマナーや緊 急時の対応、日常的に行われるレクリエーションの考え方を説 明する。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

記載例／ 通信学習の場合

(別添 2 - 2)

平成 25 年 4 月 1 日現在

シラバス

指定番号 19

商号又は名称：株式会社大阪商事

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援職務の理解			
指導目標	① ○○○○ ② ○○○○ ③ ○○○○			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<通信学習課題の内容> ○○○○ <講義内容> ○○○○ ○○○○ <演習実施方法> ○○○○
② 自立に向けた介護	4	1	3	<通信学習課題の内容> ○○○○ <講義内容> ○○○○ ○○○○ <演習実施方法> ○○○○
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ○○○○ ○○○○
(合計時間数)	9	4	5	

「別紙 3 通信形式で実施できる科目ごとの上限時間と各科目の総時間」を基に、通信学習時間の上限を超えないよう注意すること。

「人権啓発に係る基礎知識」は、通信学習で実施できないので注意すること。

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。